

2010年度

科目名	道徳教育の研究		
担当教員	菊地 建至		
配当	教福2	コード	25440
開期	前期	講時	火曜日5限
単位数	2		
授業テーマ	現代社会の道徳教育を想像・創造する		
目的と概要	<p><授業の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳(倫理)」に関して、その基礎をしっかり理解する。とくに「現代社会の」道徳(倫理)にとって重要なことを知り、その教育の点で成長する。 ・下記テキストも活用しながら、「道徳の教育」について柔軟に考え、多様な「道徳に関する考察・話し合い・授業」を実践することができるようになる。 <p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この「道徳教育の研究」は、上記の目標に合わせた授業になる。とくに、2010年度は、「(より)よいコミュニケーション・会話」・「ことばを使った、思考と表現」の視点にたった「道徳教育」研究を重視する。また、「他人とどうかかわるか」に関連した授業内容が多い。 ・この「道徳教育の研究」は、たんなる講義形式ではなく、「映像資料」・「課題」・「グループワーク」をたびたび取り入れるなど、学生が「能動的に参加する」機会を多く設ける。 ・単位取得には、「予習」・「授業参加」・「復習」のいずれに関しても、積極的に取り組むことが必要です。 		
成績評価法	平常点のみ(100%)で、評価する。 平常点は、「授業参加の積極性」・「課題や小テストの評価」・「グループワークの評価」などによって、「総合的に」評価される。		
テキスト	アンソニー・ウェストン『ここからはじまる倫理』、春秋社。		
参考書	授業のなかで、適宜指示する。 また、オスカー・ブルニフィエ『こども哲学』(朝日出版社)の一連の本を活用することもあるだろう。		
履修に当たっての注意・助言	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では、「話されることばをよく聞き、集中して、ていねいに考える」ということが重視されます。そのために、「私語」はけっして許しません。 ・ただ、毎回座っていれば単位がとれて当然だとか、授業中の「私語」や「授業と無関係な用事をする」ことに厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生、遅刻・欠席・早退がちな学生は、この授業には向きません。 ・このように厳しい面がありますが、そうした注意が守られれば、きっと、親しみやすく、楽しく学べる授業になると思います。いっしょに、よい授業をつくりましょう。 		
講義計画			
1-2	ガイダンス --- 「テレビドラマ」を通して、「道徳(倫理)的な思考って、どんなことか」を学ぶ。		
3-4	「道徳(倫理)を必要とするのは、誰か」 --- 「感情・直感だけにたよること」・「独断」・「反射的な自己弁護」などに注意しよう。		
5-6	「ひとりでいるのと、みんなでいるの、どっちがいい？」		
7-10	「想像力を閉ざす／想像力を開く」と「二極化してはいけない」		
11-12	「みんながいて、自由にできない？」		
13-15	「学期末の総まとめ」関連		
以上、順不同。			